

この説明文書は服用前に必ずお読みください。また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

つらい頭痛に イブプロフェン・アセトアミノフェン配合 解熱鎮痛薬

第②類医薬品

テラポニン頭痛薬プレミアム

テラポニン頭痛薬プレミアムは、イブプロフェンとアセトアミノフェンの2つの解熱鎮痛成分に、鎮痛効果を助けるプロモバレリル尿素と無水カフェイン、胃粘膜を保護する酸化マグネシウムを配合した解熱鎮痛薬です。つらい頭痛や熱にすぐれた効果を発揮します。

⚠ 使用上の注意

⊗ してはいけないこと (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと
 - (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
 - (3) 15才未満の小児。
 - (4) 出産予定日12週以内の妊婦。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと (眠気等があらわれることがある。)
4. 服用前後は飲酒しないこと
5. 長期連用しないこと

必ずお読みください。



🗨 相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
 - (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
 - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
 - (3) 授乳中の人。
 - (4) 高齢者。
 - (5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (6) 次の診断を受けた人。 心臓病、腎臓病、肝臓病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病
 - (7) 次の病気にかかったことのある人。 胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること



関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、青あざができる
消 化 器	吐き気・嘔吐、食欲不振、胃部不快感、胃痛、口内炎、胸やけ、胃もたれ、胃腸出血、腹痛、下痢、血便
精神神経系	めまい
循 環 器	動悸
呼 吸 器	息切れ
そ の 他	目のかすみ、耳なり、むくみ、鼻血、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、出血、背中痛み、過度の体温低下、からだがだるい

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症、 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
薬剤性過敏症候群*	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根等)のはれ等があらわれる。*

肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎 障 害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。
無菌性髄膜炎	首すじのつばりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き気・嘔吐等があらわれる。(このような症状は、特に全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の治療を受けている人で多く報告されている。)
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をすするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

- 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
便秘、眠気
- 3~4回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

効 能

- 頭痛・肩こり痛・月経痛(生理痛)・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・咽喉痛・歯痛・抜歯後の疼痛・打撲痛・ねんざ痛・骨折痛・耳痛・外傷痛の鎮痛
- 悪寒・発熱時の解熱

用法・用量

次の量を、水又はぬるま湯で服用してください。

年 齢	1 回 量	服用回数
成人(15才以上)	2錠	1日2回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用してください。服用間隔は6時間以上おいてください。
15才未満		服用しないでください。

<用法・用量に関連する注意>

- (1)用法・用量を厳守してください。
- (2)右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲みください。
(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。)

(錠剤の取り出し図)



成分・分量

4錠中

成分名	分量	作用
イブプロフェン	390mg	発熱や痛みの元(プロスタグランジンの産生)を抑え、解熱・鎮痛効果を発揮します。
アセトアミノフェン	390mg	脳に作用して熱を下げ、痛みを抑えます。
プロモバレリル尿素	200mg	鎮痛効果を高める働きがあります。
無水カフェイン	160mg	鎮痛効果を助けるほか、頭痛を和らげます。
酸化マグネシウム	180mg	胃粘膜を保護し、胃が荒れるのを防ぎます。

添加物：クロスCMC-Na、部分アルファー化デンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸Mg、無水ケイ酸、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、セルロース、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン

保管及び取扱い上の注意

- (1)直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- (2)小児の手の届かない所に保管してください。
- (3)他の容器に入れ替えないでください(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4)使用期限をすぎた製品は服用しないでください。

製品についてのお問い合わせは、お買い求めのお店又は下記にお願い申し上げます。

小林薬品工業株式会社 お客様相談室
電話：0120-584-419
受付時間：10時～16時(土、日、祝日を除く)

副作用被害救済制度の
お問い合わせ先

(独)医薬品医療機器総合機構
☎ 0120-149-931(フリーダイヤル)

発 売 元 **日新薬品工業株式会社**
滋賀県甲賀市甲賀町田堵野80-1

製造販売元 **小林薬品工業株式会社**
岐阜県岐阜市中鶴1丁目139番地